

長野県で生育が確認されたクルマシダ (チャセンシダ科)

上野 勝典*・上野 由貴枝

A new record of *Asplenium wrightii* D.C.Eaton ex Hook., in Nagano Prefecture

Katsunori Ueno* and Yukie Ueno

2023年11月、すでに紅葉が終わりを迎えた天龍村の林道を歩いていたとき、林道沿いの岩に見かけないシダが着生しているのを見つけた。葉身はまだ30cm程度で孢子嚢群を少しだけ付けた小さいものであったが、長野県では記録の無いクルマシダ *Asplenium wrightii* D.C.Eaton ex Hook. であることがすぐにわかった。その後、さらに1kmほど離れた別の場所では、葉身が50cmを越えて育っているクルマシダが見つかった。その周辺には5cm前後の幼株が数個体認められた。クルマシダは関東以西の海岸に近いところに分布する暖地性のシダで、近年、神奈川県や千葉県でも相次いで発見されている(神奈川県植物誌調査会 2018、千葉 2023)。以前、信州シダの会で訪れた愛知県東栄町でも見たことがある。天龍村は東栄町から北に18km程度離れたところに位置しており、本種の分布としてはほぼ北限に近い。クルマシダは日本産チャセンシダ属の中では大型のほうで、葉は艶のある濃緑色をしており、一回羽状の単純で端整な形態をした美しいシダである。生育地の近くでは、オオバノアマクサシダやシシラン、タカオシケチシダなどの暖地性シダが豊富で、今後も他の暖地性シダが見られるようになるかもしれない。

証拠標本：長野県天龍村中井侍 alt.350m、上野勝典・上野由貴枝 19.Nov. 2023 (NAC)

引用文献

神奈川県植物調査会 (2018) 神奈川県植物誌 2018 (上). あしがら印刷.
千葉道徳 (2023) 房総半島でクルマシダを発見, 日本シダの会会報 Vol.4, No.44. 11-12.



写真1 天龍村のクルマシダ
(2023年11月19日)



写真2 クルマシダの孢子嚢群

